

会
報

しせん

発行元 神奈川県平塚市寺田縄 265-1
社会福祉法人 至泉会

代表者 森 三郎

編集 清水 行夫 加藤 美穂

瀬川真美子 小原 一洋

向井めぐみ 小川 哲生

第2号

2015.09 発行



平成二十七年 新採用職員紹介

福祉業界に厳しい風が吹く中、今年度もフレッシュな職員が入職しました。新卒者、経験者と経歴は様々ですが、法人が関わるすべての利用児・者、ご家族の皆様方のニーズに応えられるよう育てていきたいと思っておりますので、今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

◇あけぼの園

柴山 法子

安藤 明子

古川 千尋

豊嶋 由希子

竹内 咲

児童指導員

児童指導員

児童指導員

児童指導員

児童指導員

◇精陽学園

野木 拓馬

藤村 美里

山田 貴賀子

白井 由美

池松 亜美

原田 美恵子

土田 恵美子

児童指導員

保育士

児童指導員

児童指導員

児童指導員

調理員

調理員

◇ソーレ平塚

能代 瑞穂

◇すこやか園

原 ゆきみ

榎原 杏梨

青柳 孝明

長野 真之

生活支援員

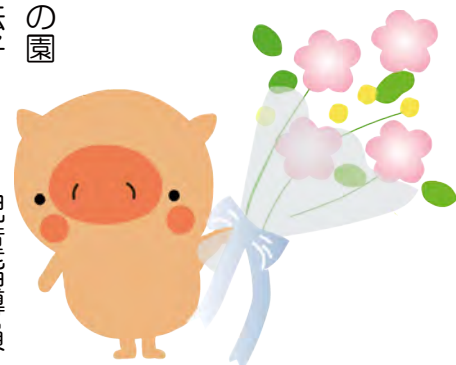
保育士

児童指導員

清掃員

清掃員

清掃員



今号のテーマ

「しせん」第二号では、各施設の「今年のイチオシ」をテーマにそれぞれの施設で力を入れていることを掲載しています。同法人内でも施設ごとの違いを感じられるかと思しますので、ご一読いただければと思います。

社会福祉法人至泉会へのご寄付ありがとうございます。

渡辺 敏郎 様

小野 剛 様

星野 泰啓 様

久保谷 さち子 様

大石 哲 様

匿名

(順不同)



(七月一日付け採用者まで)

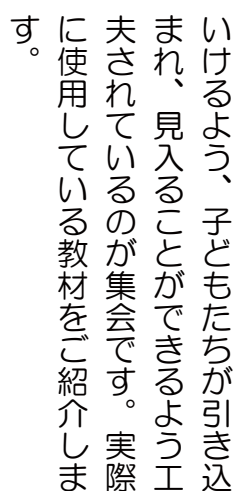
あけぼの園の集会

保育士 一寸木 友佳

今年度も新しいお子さんがたくさん入園されましたが、早い時期から椅子に着席して集会に参加することができています。今回は、「集会」がどのように行われているかをお伝えしたいと思います。

集会とは、リーダーとなる職員と子どもたちが対面し、半円状の隊形で椅子に座り、職員の提示する教材を座って見る活動です。

「着席」は、今後の学校生活、社会生活を営む上でも、重要な課題の一つです。一つのことを長く続ける、落ち着いて行動する…などが課題のお子さんも、「楽しく」そして気づかないうちに長く座れていた！という経験を積み重ねて

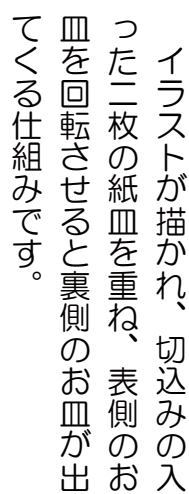


日常の中で、扇風機や床屋のサインポール等くるくる回るものに見入ってしまうことがあるかと思えます。この教材は、丸型の厚紙に様々な模様を描き、回して使います。回すと、吸い込まれるように模様が動き、一瞬で子どもたちの目を引きまします。



主に、導入として提示すること
が多い教材の一つです。並んだ人
物やキャラクターなどの足部分が
動く仕掛けになっています。

♪ あし あし あし あし
てく てく 歩きましよう♪

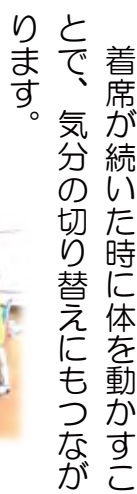


表側には食べ物、裏側にはキャラクターなどのイラストが描かれているため、まるでキャラクターが食べ物を食べたように見えます。



職員や子どもたち自身が教材となります。全身を使った大きな動きはインパクトがあります。

職員と一緒にリズムに合わせて足を上げる「あしあし隊」等のダンスをする、歌に合わせて楽器を鳴らす、車に変身してみんなの前を走り回る等、バリエーション豊富です。



四枚の扉をリズムに合わせて一枚ずつめくっていくと、中から果物や動物、キャラクター等、子どもたちの大好きな物のカードが出てきます。子ども達は、次に何が出てくるのか、興味津々で見入っています。

おいしそうな果物が出てきたら、職員がパクツ！と食べて見せた後に子ども達の口元に提示すると、パクツ！食べる模倣をしてくれます。また、カラスや牛等の鳴き声のある動物の絵と同時に鳴き声を提示すると、職員の口の動きに合わせて鳴き声を真似する等、発語を促すことにもつながります。



・たまごがボン（たまごの中から
黄身と白身が飛び出す仕組み）
☆大きく動くものは、目で見て楽しめるようです

- ・インディアンのダンス

- のびのびスーツ（着ぐるみ）

☆人間教材の一部です。時には職員や子ども達が変わります！



事業説明

あけぼの園

ことばや身体の発達に遅れや心配のあるお子さんの健やかな育ちを応援、支援する施設です。食事、排泄、身支度、着替えなど基本的な生活習慣を身に付けるため、個々に合わせた支援に取り組みます。集団の力を通して物を見続ける事、相手に合わせる事、待つ事、また、発語能力を引き出す事を目指し、日々の療育に励んでいます。

開園時間…月～金（十時～十四時）
対象…三～五歳の就学前の幼児
定員…三十名

事業…児童発達支援事業、日中一時支援事業、障害児相談支援事業、特定相談支援事業

精陽学園

福祉型障害児入所施設として、一人ひとりの障害や発達にあった生活が出来るように支援しています。障害の種別は問いませんが、主たる障害を肢体不自由児としています。保育士や児童指導員の他、看護師、理学療法士等の専門職のスタッフも在籍しています。家庭の代わりとなるので、職員との信頼関係を築き、安全と安らぎのある生活が出来るように配慮しています。通学先は、地域の小中学校、特別支援学校、県立高等学校等六校に通学しています。

対象…二歳児から高等部卒業生までの障害のある児童

定員…入所…五十名、短期…二名、日中一時支援…五名、事業…長期入所、短期入所、日中一時支援、緊急一時保護

ソーレ平塚

ソーレ平塚は主たる障害が身体障害の成人の方が対象の入所施設です。あわせて、在宅生活をされている方を対象に、短期間の入所として短期入所を提供しています。個別の活動を重視し、ご本人の希望に沿った活動内容と、地域交流や社会参加ができるよう支援しています。

対象…十八歳以上六十五歳未満の成人

定員…入所…男性二十七名、女性二十三名の計五十名

短期…男性三名、女性三名（うち各一名はあんしんネット対象者）

事業…入所…生活介護、施設入所支援

短期…短期入所

ソーレ平塚地域支援センター

ソーレ平塚地域支援センターは、身体障害児・者の通所事業と相談事業を行っています。

開所時間…月～金（八時半～十七時半）

〈ソーレ平塚ケアセンター〉

生活介護事業として、自立の促進、生活の質の向上、社会参加を支援します。

定員…二十名

〈ソーレ平塚療育園〉

生活介護・児童発達支援事業として、重症心身障害者の方と障害の重い未就学の幼児が対象で、健康の維持や生活習慣の確立と情緒の安定をめざします。

定員…五名

〈ソーレ平塚地域活動支援センター〉

平塚市地域活動支援センター事業として、生活介護事業対象とならない方と重度重複障害の小学生の放課後支援（タイムケア）を行います。

定員…十名

定員…五名（タイムケア）

〈ソーレ平塚生活支援センター〉

平塚市障がい児者相談支援事業として、平塚市内一円の、主として身体障害児・者の相談に応じます。また、ご家族からの相談にも対応しています。

すこやか園

すこやか園では「地域の人々と心が通い、地域の人々と共に成長する施設」をモットーに五つの事業を行なっています。

〈地域活動支援センター〉

伊勢原市内にお住いの障がいをお持ちの方が通所されています。

スノーズレン・創作活動やサークル活動、利用者様同士の交流を大切にしています。通所する事で「生きがい」を見つけ、充実した在宅生活を支援しています。

定員…二十名

〈児童発達支援事業〉

発達に遅れや心配のあるお子様とお母様等と一緒に登園していただく母子療育です。グループ療育、個別療育を行なっています。

定員…三十名

〈日中一時支援事業（ひなたぼっこ）〉

伊勢原市内在住の医療的ケアを必要とするお子様の放課後支援を行なっています。重症心身障害児および肢体不自由児の方が対象となります。

定員…五名

〈保育所等訪問支援事業〉

集団生活を送る上で支援が必要なお子様に対して、職員が幼稚園・保育園に訪問します。

〈相談支援事業（生活支援センター）〉

福祉サービスを必要とする方に、状況に合わせたアドバイスやプランの作成等を行います。

すこやか園

「すこやか園の活動」

「楽しむ心とともに」

地域支援課主任 春木 誠

今回すこやか園は、地域活動支援センターの活動にスポットをあてて紹介していきます。

地域活動支援センターでは、各種活動を通じて、利用者が主体的に参加でき、活動の楽しさを肌で感じられるように支援します。また、利用者の希望や個性を大切にしながら、プログラムを提供します。

地域活動支援センターで実際に行なっている活動を紹介します。

「茶々のデコスイーツ」

「とある森の入り口に小さなカ

フェがありました。お店には名物パティシエがいてケーキを焼くのが得意です…。「サークル活動」茶々のデコスイーツ」にはストーリーがあります。参加者が一人ひとりがストーリーの主役となり、物語を紡ぐのです。パティシエとしてケーキマグネットの土台を作

り、クリームを盛り付け、粘土で作った様々なスイーツをトッピングします。参加者は言います。「作品は私たちの心です…」と。一つとして同じものはなく、どれもがキュートな作品ばかりです。

「作って楽しい、使って楽しい」をテーマにスタートしました。もっと自分達の今を伝えたい、かわいらしさには拘りたい…。いつしか皆の思いは物語となり歩き始めました。作品展や高校の文化祭など作品を通じて、老若男女を問わず多くの方々と交流する機会が生まれました。

茶々のデコスイーツは、一人一人が夢を描き、夢も責任も喜びも共有する。とある小さなカフェですが、未来を見て夢を語る…。そんなカフェです。



「マメのフェルトせっけん」

マメのフェルトせっけんは石けんなのにとってもユニーク！羊毛の質感、石けんの表面には個性豊かなキャラクター達が…。意表を突いてくるような数々のキャラクター達はそこに製作者のこだわりを感じさせます。あたたくくて、柔らかくて、どこか懐かしさを感じたりして…。数々の試行の中でフェルト石けんという作品となりました。製作者マメさんは言います。「この作品にお金を出してもほしいと思うような温かみと価値を表現したい」と。

石けんは使い終わった後も周りのフェルトがギュッと縮まりストラップのヘッドになります。使う人の側に寄り添う…。そんな一品です。



「スヌーズレン」

「スヌーズレン」という言葉は、オランダ語の「スヌッフレン（環境内のいろいろな刺激の探索）」と「ドゥーズレン（くつろぎ）」という二つの言葉から創られた造語だそうです。音を楽しんでみたり、優しい香りに鼻がむずむずしてみたり、光の明滅に思わずうつとりしたり…。居心地が良いと感じるペースを大切にします。その人の求めるペースとは何か、心地良いという事は？探究する姿勢を忘れません。担当を中心にアイデアと工夫、春夏秋冬を表現したり、外へ出て風を感じてみたり。様々な空間を表現し、利用者と職員が共有し、ゆったりと過ごす。利用者と職員が共にくつろぎを求めます。



精陽学園

「社会人への第一歩!」

生活課保育士 瀬川 真美子

今回のイチオシとして、移行支援について紹介いたします。精陽学園は、児童の入所施設です。高校を卒業するにあたり、次の暮らしについて考えていく必要があります。平成二十七年三月、高校を卒業された伊藤菫さんは、高校一年生の頃から就職や生活をどうするのか、児童相談所、福祉事務所、学校等と相談を行ってきました。

複数のグループホームの体験生活や就職実習を行い、現在は福祉施設の厨房に調理員として就職し、グループホームから通っています。



仕事を始めてから二か月がたち、現在の暮らしや仕事についてお話を伺いました。

【瀬川】

伊藤さんは、学校を卒業されてからすぐに就職することを希望していましたね。将来的には一人暮らしをするという夢を持っているようですが、施設からグループホームでの生活に変わり、率直な感想を教えてくださいませんか。

【伊藤さん】

今は落ち着いて生活できていると思う。一か月働いて、やっと仕事が落ち着いてきた。入ってすぐの頃は、覚えるのが大変で、あたふたしていた。厨房で大きな機械を使っているから、大きな声で話さないと聞こえなくて、怒られることもあった。

【瀬川】

最初は慣れないことも多く、大変なことが沢山あったそうですね。少しずつ仕事に慣れてきて、今はどのように感じていますか。

【伊藤さん】

嫌なときは、怒られるときかな。でも、自分が何で怒られているのかちゃんと説明して貰えるから、



それ以上のことを怒られなくて、頑張れる。

厨房で働いているから、爪切りとか髪を結ぶように気を付けている。職場の人には「もっと髪を切った方が良い。」と言われるけど、私は長いのが好きだから伸ばしているけどね。

【瀬川】

怒られてしまったことでも、前向きに考えることができているのですね。とても良いことです。グループホームから職場までは電車とバスで一時間半程かかっているのですね。以前は朝一人で起きることが苦手だったと思いますが、

今はどうでしょうか。

【伊藤さん】

起きられなくて二度寝することもあるけど、通勤のバスの中で寝るようにしているからなんとか大丈夫。

【瀬川】

時間の使い方を自身で工夫されているのは良いですね。それでは反対に、仕事をしていて良かったと感じるところはどんなことでしょうか。

【伊藤さん】

お金が貰えること。結婚もしたいと思っているし、将来の為に貯金している。貯金とは別にお小遣いがあって、そっちは趣味の為に使っている。

最後に、地域での暮らしについて伺ったところ、「自分のペースで生活できている。」と穏やかに語って下さいました。

明るくて活発な伊藤さん。新たな暮らしの場でも、ご自身の持ち味を活かし、更なる夢へと一歩ずつ歩んでいる様子が伺えました。今後も伊藤さんの夢を応援していきたいと思っています。

ソーレ平塚

「日帰り旅行復活！」

生活支援課主任 小原 一洋

【日帰り旅行への想い】

ソーレが開設されてから、今年で十七年目になります。今日に至るまで、障害者の制度が大きく二回変わり、施設行事の提供内容も見直されました。あわせて職員の配置が困難になったことで、毎年行っていた日帰り旅行や、一泊旅行が平成十七年度以降は実施できていない状態でした。

数年が経ち、居住者も年齢を重ね、介護タクシーや家族の協力を得て外出することも困難になってきた中、また日帰り旅行に行きたいという意見が数多く挙がるようになりました。

【プロジェクトを立ち上げよう！】

そこで昨年度、日中活動見直し・日帰り旅行検討プロジェクトを立ち上げ、どうすれば日帰り旅行を実施することができるか一年間居住者の意見を踏まえながら検討し、家族懇談会で家族の理解を得て、今年五月に無事、一回目の日帰り旅行として、富士芝桜まつりに行くことができました。



【第一回日帰り旅行】

五月十一日（月）当日は快晴で、雲ひとつないよい天気恵まれました。色とりどりの芝桜や花々が一面に広がり、日本一の富士山もきれいな姿で大きく見ることができました。参加された居住者さんたちもみな、一望できる景色に感動されている様子でした。

まつり会場の近くにある食事処での昼食も出かける前から楽しみにしており、御膳の鍋や刺身、茶わん蒸しを美味しいと言われていました。外で楽しく食べる雰囲気もより一層美味しくさせてくれていたようでした。

まつり開催時期の混雑により、時間が押してしまい、途中寄る予定だったサービスエリアでの買い

物やお茶はなくなってしまいました。参加された居住者からは「行けてよかった。また行きたい」「いい景色が見られてよかった」「みんなで出かけると楽しい」「大型バスに乗って、ガイドさんもいてよかった。またバスに乗りたい」等、感想があり、今回の日帰り旅行を検討を重ね実施することができ本当に良かったと、プロジェクトメンバーも嬉しく思っています。

今年度から二年かけて希望される方全員を、日帰り旅行にお連れする予定です。十月にディズニールンド、一月の浅草寺・スカイツリーの日もよい天気の中、楽しい旅行とってもらえるよう、係で考えていきたいと思っています。

地域支援センター

「MPPT」

地域支援センター副主任

福田 勝範

平成十一年四月、ソーレ平塚が産声をあげました。そして、平成二十三年三月十一日、あの日が出てきました。その時、我々の手元に『大規模災害・津波』に関するマニュアルは存在しませんで

した。また、その他のマニュアルについても時代に合った改訂がされていませんでした。そこで改めてひと目で分かるマニュアルの必要性を感じることとなり、既存のマニュアルの改訂や必要なマニュアルの作成が急務と考え、今年度、地域支援センターではマニュアルプロジェクトチーム（MPPT）を立ち上げました。

マニュアルと聞くとあまり良いイメージを持たない方もいるのではないのでしょうか。例えば、あらゆる言動や行為が文字で管理され、文章に支配されてしまう。そこに温もりや心を感じ取ることができるのか。何か冷たい印象に感じてしまう等、そんなイメージはありませんか。確かに近年では、マニュアル化やデジタル化、効率化などといった単語が書面を飾り、スピード感や統一感を煽り立て、機械的な作業が時代にマッチしているかの如く私達の感覚は無意識にそこへシフトしているように思えます。果たしてそれでいいのでしょうか。何か大切なものは忘れ去られていないのでしょうか・・・。とは言うものの、その反面、マニュアルは、活用方法によってはと

ても有効なものであり、必要不可欠なものとなり得ます。

例をあげると、災害時対応マニュアル、職員心得マニュアル、送迎車運転マニュアル等、我々職員がご利用者やご家族と接するにあたり、心得ていなくてはならない内容のものです。

そこで、MPDでは、良い意味でのサービスの『標準化』を図り、いつでもどこで誰が対応しても皆さまにご満足頂ける地域支援センターになれるよう、本来に必要なマニュアル、使えるマニュアルを作成するということを目標にして、現行の業務において知っていることや既にできていること等もマニュアル化し、文書化することで、常に正しい対応や操作ができているのか、また、ご利用者やご家族が「安全と安心」を感じてもらっているのか、現在の行為がベストであるのか等、それぞれの立場で考え人間の温もりと優しさがあるマニュアルの完成を目指し、今後、改訂や作成をしていきたいと思っています。

運営面については、通所施設では、出席（通所）率をいかに上げるか、また入所施設では入所定員の確保をいかにしていくのかということを目標に運営をしてきましたが、各施設とも厳しい状況にありました。あけぼの園は、年度途中で職員の退職がありました。下半期は療育体制が整い契約児童数が増え、かつ出席率も良かったため、年間延べ利用人数と月平均の出席率は、前年度を上回ることができました。精陽学園は、年度途中で成人利用者の成人サービスへの移行が思ったより進んだことと、入所希望者の多くが幼児で一度に多く受け入れができなかったことにより、今年度も定員を満床にすることができず、経営的には非常に厳しい状況でした。ソーレ平塚は、入居者の入院が多く、平均すると毎月一名は入院している状況にあったことと、短期入所の利用者で毎月多く利用する方がソーレ平塚に入所したことにより短期入所の利用者数が減少したため昨年度に比べて収入が減少しまし

た。ソーレ平塚療育園は、上半期は職員の異動によりサービス管理責任者が不在となり、療育園の生活介護を一時休止して成人の利用者をケアセンターの生活介護に移行し、サービスを低下させないようにはしましたが、下半期にサービス管理責任者の異動を行い療育園の生活介護を復活させました。また、年度内でサービス管理責任者の研修に職員を派遣し資格を取らせ、職員の異動があっても業務を継続できるようにしました。すこやか園は、新入園児が昨年度に比べて少なかったことに加えて、幼稚園等への並行通園児が増えたこともあり、契約児童数は増えたものの、昨年度に比べて出席率や一日平均利用人数は減少しました。

当法人では、法人の基本理念を念頭に利用児者の安心と安全を守り、療育や支援等の各種サービスを提供することを目標としています。今年度は、死亡事故はなかったものの、ソーレ平塚において転倒による骨折があり、再発防止に向けて支援方法の見直しを行いました。その他の施設は、大きな事故はありませんでしたが、軽微な交通事故が数件あったので、職員への交通安全指導を行いました。また、誤薬や薬のセットミスなどがあつた施設においては、再発防止に向けて業務委託している医師に薬に関する講義をしていただきました。

近年、社会福祉法人は地域社会への貢献を求められるようになってきましたが、今年度は、以下の活動を行いました。①独居老人への配食サービス、②地域の障害児親の会の活動（障害児の余暇支援）等へのレインボーホールおよび会議室の開放、③平塚市より委託された市道の花壇の管理、④保護観察者の社会貢献活動の受け入れ。

今後とも利用児者への療育及び支援については、各施設ともに一人ひとりに向き合い、地域のニーズも積極的に受け止め、至泉会を利用される利用児・者、ご家族が幸せになれるよう心がけていきたいと思っています。

資金収支計算書
(自)平成26年 4月 1日(至)平成27年 3月31日
(単位:千円)

勘定科目		決算(B)
事業活動による収支	収入	
	児童福祉事業収入	165,505
	障害福祉サービス等事業収入	722,701
	借入金利息補助金収入	1,316
	経常経費寄附金収入	1,427
	受取利息配当金収入	79
	その他の収入	6,536
	事業活動収入計(1)	897,563
	支出	
	人件費支出	660,859
施設整備等による収支	事業費支出	100,374
	事務費支出	108,296
	支払利息支出	1,358
	その他の支出	5,606
	事業活動支出計(2)	876,493
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	21,070
	収入	
	施設整備等補助金収入	10,725
	施設整備等寄附金収入	1,500
	施設整備等収入計(4)	12,225
その他の活動による収支	支出	
	設備資金借入金元金償還支出	14,800
	固定資産取得支出	2,282
	施設整備等支出計(5)	17,082
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-4,857
	収入	
	積立資産取崩収入	4,477
	その他の活動収入計(7)	4,477
	支出	
	積立資産支出	24,621
予備費支出(10)	その他の活動による支出	366
	その他の活動支出計(8)	24,987
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	-20,509
	当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-4,296
	前期末支払資金残高(12)	220,519
	当期末支払資金残高(11)+(12)	216,223

事業活動計算書
(自)平成26年 4月 1日(至)平成27年 3月31日
(単位:千円)

勘定科目		当年度決算(A)
サービス活動増減の部	収益	
	児童福祉事業収益	165,505
	障害福祉サービス等事業収益	722,701
	経常経費寄附金収益	1,427
	その他の収益	160
	サービス活動収益計(1)	889,793
	費用	
	人件費	664,688
	事業費	100,374
	事務費	108,296
特別増減の部	減価償却費	43,294
	国庫補助金等特別積立金取崩額	-30,919
	国庫補助金等特別積立金積立額	10,725
	サービス活動費用計(2)	896,458
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-6,665
	収益	
	借入金利息補助金収益	1,316
	受取利息配当金収益	79
	その他のサービス活動外収益	6,376
	サービス活動外収益計(4)	7,771
経常増減差額(7)=(3)+(6)	費用	
	支払利息	1,358
	その他のサービス活動外費用	5,606
	サービス活動外費用計(5)	6,964
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	807
	経常増減差額(7)=(3)+(6)	-5,859
	収益	
	施設整備等補助金収益	10,725
	施設整備等寄附金収益	1,500
	固定資産受贈額	4,359
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	特別収益計(8)	16,584
	費用	
	基本金組入額	500
	固定資産売却損・処分損	0
	国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	
	その他の特別損失	
	特別費用計(9)	500
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	16,084
	当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	10,225
	繰越活動増減差額(12)	281,741
純資産の部	繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	291,966
	基本金取崩額(14)	
	その他の積立金取崩額(15)	1,600
	その他の積立金積立額(16)	15,600
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	277,966

貸借対照表
平成27年 3月31日現在

資産の部		負債の部	
当年度末		当年度末	
流動資産	257,022	流動負債	101,587
現金預金	132,088	事業未払金	17,444
事業未収金	113,074	1年以内返済予定設備資金借入金	14,800
未収金	150	1年以内支払予定長期未払金	686
未収補助金	8,237	未払費用	23,319
立替金	2,841	預り金	0
前払金	471	職員預り金	36
前払費用	106	賞与引当金	45,302
仮払金	0	固定負債	99,280
その他の流動資産	55	設備資金借入金	31,600
固定資産	1,240,556	退職給付引当金	65,163
基本財産	741,525	長期未払金	2,517
土地	52,510	負債の部合計	200,867
建物	689,015	純資産の部	
その他の固定資産	499,030	基本金	54,827
土地	3,000	第1号基本金	21,594
建物	2,610	第2号基本金	33,233
建物附属設備	192	国庫補助金等特別積立金	576,007
構築物	4,486	その他の積立金	387,911
機械及び装置	100	人件費積立金(措置)	13,000
車輛運搬具	12,282	施設・設備整備積立金(措置)	88,711
器具及び備品	20,749	人件費積立金	54,800
権利	2,036	施設・設備整備積立金A	163,600
ソフトウェア	368	施設・設備整備積立金B	31,800
退職給付引当資産	65,163	移行時特別積立金	36,000
人件費積立資産(措置)	13,000	次期繰越活動増減差額	277,966
施設・設備整備積立資産(措置)	88,711	(うち当期活動増減差額)	10,225
人件費積立資産	54,800	純資産の部合計	1,296,711
施設・設備整備積立資産A	163,600	負債及び純資産の部合計	1,497,577
施設・設備整備積立資産B	31,800		
移行時特別積立資産	36,000		
リサイクル預託金	135		
資産の部合計	1,497,577		